

小中一貫教育だより

「つなぐ」

～中学校区の実態に応じた取組を求めて～



目標をつなぐ
カリキュラムをつなぐ
子どもの心をつなぐ
教職員の意識をつなぐ
家庭・地域の絆をつなぐ
「小中一貫教育！」



令和5年度（2023年度）
No.14（2024.3.25）
担当：熊本市教育委員会事務局
学校教育部指導課

各中学校区の取組をつなぐ

R5年度 モデル校の報告書 が提出されました！

小中一貫教育研究モデル校実践報告書「実践内容」より一部抜粋

花陵中学校区（古町小、春日小、白坪小、花陵中）

- 3年ぶりに会場校での公開授業を開催し、日頃の春日小の授業の様子を参観してもらうことができた。今回は校区の幼稚園・保育園からも参観いただいた。
- 既存の幼小中連携の日の取組を生かしたことで、大きな負担を感じることはなかった。また中学校区の課題解決に向けて取り組んだことで、校区内の小中学校の一体感が感じられるようになった。
- 各小中学校が同じテーマの基に道徳の授業研究を進めたことで、教材研究がより深まった。また、中学校の授業を具体的に知ることができ、中学校段階を見通した授業づくりを行うこともできた。
- 親子道徳授業内容報告及び道徳授業スキルの情報交換会では、親子道徳の授業内容を互いに共有することで、道徳教育の小学校同士の横のつながりや、小学校と中学校の縦のつながりを知ることができた。
- 小中一貫カリキュラムを作成することで、道徳において共通して取り組む内容項目、題材について共通理解を図り、学習活動を進めることができた。

城西中学校区（小島小、中島小、城西中）

- 幼小中連携の一環として校区の幼稚園・保育園を訪問・参観し、幼児教育への理解を深めた。また、それぞれの園・学校においてさらに幼小中連携カリキュラムを意識した教育実践につなげた。
- 小・中相互の学習や取組につながりを持たせるため、相互の学習目標や学習内容、その手法や手段についての共有を図るための意見交換会を行った。
- 小・中3校で、11月6日(月)から12日(日)の1週間、同じ内容の健康リズムチェックを行った。その結果を受けて、保健委員会が児童集会で生活リズム改善についての呼びかけを行った。また、課題であるメディアとの付き合い方について、学校保健委員会を開き、保護者への啓発も行った。
- 共通実践事項の「挨拶」への取組として、委員会活動を中心にあいさつ運動に取り組んだ。
- 中学校の文化発表会をDVDにまとめ、校区の小学校へ配布した。小中が一貫した学習を行っていることを児童へ伝えることができた。

飽田中学校区（飽田東小、飽田南小、飽田西小、飽田中）

- 飽田中校区幼保小中連携協議会テーマのもと、飽田中校区が地域を含めて一体となって取組を進めた。各学校では各部会（地域、生徒指導、道徳、算数・数学、中1ギャップ、小1プロブレムの6部会）を中心に取組んだ。
- 第1回研修会(6/9 飽田東小)授業参観。実践発表と各部会に分かれて協議を行った。
- 地域部会では、地域の方々と「規範意識」「交通安全」「学力」「健康」など校区の子ども課題について、現状と解決策について話し合った。
- 各学期に計算（算数）大会を校区全体で実施した。次年度は全学年の問題を持ち寄って取組む予定。
- 10月に小中一貫カリキュラムに基づいた公開授業を全学年で行った。飽田中校区の教職員や地域の方々にも見ていただいたことで、本校の実践を広く知っていただき、共に取組むための提案にもつながることができた。
- 小中学校の教職員が、幼稚園と保育園の授業・保育参観をすることで、小1プロブレムの解消に向け、教職員の意識を改善することができた。

力合中学校区（力合小、力合西小、力合中）

- 校区で高めたい道徳の内容項目として、「思いやり・感謝」に焦点を絞って一貫カリキュラムを作成し実践した。本校では12月に「道徳の日」を設け、保護者への道徳の公開授業を全学級で行い、校区で同じ内容項目を中心に児童の育成をしていることを啓発した。
- 人権学習について小中で検討し合い、一貫カリキュラムを作成することで、内容の漏れがない、9年間を見通した効率の良い人権学習の実施につながっている。
- 道徳や人権学習では、以前の学習内容と結び付けて授業を進めることができ、効果的であった。
- 子どもの権利条約についてのユニセフ出前授業を幼小中連携の一貫として行った。同じ内容で3校とも実施したことで連携が深まった。
- 遅刻する児童が減った。また、朝の始業開始に着席していることでゆとりをもって朝の時間を迎えられている。小中が共通の目標を立て、同じ指導をすることで効果を期待できるということが分かった。

日吉中学校区（日吉小、日吉東小、日吉中）

- 小中一貫教育研究モデル校となり、小中一貫カリキュラムを作成するために前年度までの取組を整理しながら、計画的に進めることができた。
- 6月に行った幼保小中連携の全体会では、「自他を思いやる豊かな心部会」「特別支援部会」「日吉の成長ものさし部会」の3つの部会を編成し、カリキュラムの見直し、作成を行なった。
- 「自他を思いやる豊かな心部会」、「特別支援部会」ではカリキュラムが完成し、3学期は可能な範囲で実践を行いつつある。
- 「日吉の成長ものさし部会」では、幼児期から中学校までの成長の姿を「日吉の成長ものさし」として一覧にし、保護者、地域、新1年生家庭に配布して共有している。
- 来年度は、各学校がカリキュラムや「日吉の成長ものさし」を意識した共通実践を行い、適宜見直しを行いながら進めていくことを日吉中校区で共通理解している。